

民謡の普及に貢献したい



昨年の西部地区文化祭に出演



日本民謡協会民謡技能章(左)や、北海道文化団体協議会賞(右)など、数々の名誉ある賞を受賞



北海道民謡連盟最高師範

三代目 今井 笠山さん

さんだいめ いまい・こうざん
希望ヶ丘在住。
本名は松村直実。道内外で活躍する民謡の指導者・作曲家・歌手。北海道民謡の父とたたわれた初代今井笠山に師事し、才能を伸ばした。全国各地の民謡大会で優勝を飾り、ブラジルなどの海外公演にも参加。平成17年に三代目を襲名した。



民謡と共に歩んで

北海道民謡連盟で最高師範・大会審査委員長の要職に就いている三代目今井笠山さん。昨年2月に札幌から北広島に移り住み、市内で民謡の普及に力を注いでいる。

子どもの頃から民謡や浪曲が好きだった。特に節回しに魅力を感じ、ラジオから流れる曲を覚えて歌っていた。北海道の民謡を全国に知らしめ北海道民謡の父とたたわれた初代今井笠山に、12歳から弟子入りした。

稽古は厳しく、時には強く叱られることもあった。しかし理由があつて叱られたのだと心に留め、いつそう励んだと振り返る。高校生になる頃には全国大会で優勝するほどに。その後プロとして活躍し、日本民謡フェスティバルのグランプリ受賞など輝かしい成績を収める。平成17年に晴れて三代目を襲名した。

北広島で活動を広げる

「静かで環境も良いし、札幌の稽古場に通うのにも便利です」と快適な北広島での暮らしを話す。昨年7月には北広島市民謡連盟主催の「北広島ふれあい民謡まつり」にゲスト出演した。これまでもゲストとしてたびたび出演してきたが、市民となつて初めての大会に感慨もひとしおだったそう。

笠山さんの娘も幼・少年少女の部に出演し、笠山さんが三味線で伴奏した。西部地区文化協会にも所属し、10月の文化祭でステージを盛り上げた。ほかにも月1回火曜に、FMメイプルの番組で民謡を紹介するなど多方面で活躍中だ。また、市民の有志から中山久蔵の功績を歌にしてほしいと依頼を受け、構想を練っているところだ。今後は、サークルを立ち上げて民謡を広めたいそう。「北広島は公施設や会館などが整っています。

身近な会場で多くの方と民謡の素晴らしさを共有したいですね」と話す。特に次代を担う若い世代に学んでほしいと願っている。

北広島に来て良かったと思うことがある。それは北海道日本ハムファイターズのボールパーク建設候補地が市内に内定したこと。「野球が好きなので、完成したら絶対観に行きます」と笑顔を見せた。

多くの人と触れ合いたい

札幌にいた頃は福祉施設を訪問し、演歌や懐かしい歌謡曲を披露していた。入所者の皆さんは喜んで耳を傾け、中には涙を流して感動する方もいたそう。その様子を見て、うれしく感じていた。今後は市内の施設にもボランティアで慰問したいと考えている。

歌で人を元気にしたい。まちを盛り上げたい。その思いを胸に、民謡の普及を目指し活動の幅を広げることだろう。